

講座名（専門科目名）	免疫・感染制御学講座（医薬基盤・健康・栄養研究所 創薬標的プロテオミクスプロジェクト）	教授氏名	足立 淳
学生への指導方針	学位取得時に科学者として自立できる力、国内外の研究者と積極的にコラボレーションできる事が目標です。		
学生に対する要望	研究課題について深く考え、前向きに実行すること。		
問 合 せ 先	(Tel) 072-641-9862 (Email) jun_adachi@nibiohn.go.jp	担 当 者	足立 淳
その他出願にあたっての注意事項等	出願前に研究室に連絡し、Email 等で連絡を取って、受け入れ可能かどうかを確認下さい。所在地：〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ 7-6-8 医薬基盤・健康・栄養研究所		

（以下教室紹介）

ヒト臨床検体プロテオーム解析を起点にしたトランスレーショナル研究

我々の強みである、質量分析を用いた最先端プロテオーム解析技術を用いて

1. シグナル創薬・治療法開発
2. 細胞外小胞を用いた革新的バイオマーカー開発

を行っています。詳細は、<https://www.adachilab.org/research> を御覧ください。

シグナル創薬・治療法開発

がんや神経変性疾患はシグナルの異常によって発症、進展することが知られています。私たちはできるだけ体内に近い"リアル"なシグナル情報を臨床検体から取得するための最先端プロテオーム解析技術を開発してきました。これらの技術を使って2万を超えるシグナル情報を取得し、シグナルの個人差や、治療によってどのように変化するのかを調べて、新たな治療標的を発見し、治療法を開発することを目指しています。同時に、薬の利きやすさを予測、実測できるタンパク質を同定することにより、個々の患者さんに最適な治療法を提供する方法の開発も目指しています。さらに、薬理作用がよくわかっていない薬の作用機序を調べることで、その薬の守備範囲を広げて、色々な病気に効く可能性を追求していきます。



細胞外小胞を用いた革新的バイオマーカー開発

病気の診断や治療に有用な新規バイオマーカーを開発するためには、病気の根本的原因であるタンパク質の異常を見つけることが最も重要であることは言うまでもありません。このタンパク質の異常を網羅的に解析する手法が疾患プロテオーム解析であり、近年、質量分析計の急速な進歩に伴い、この疾患プロテオーム解析研究も世界中で急速に広まっています。

私たちは、最先端のプロテオーム解析技術を開発し、大規模なバイオマーカー候補タンパク質の探索と血液中の細胞外小胞を用いた大規模検証を実施する手法を確立してきました。これらの技術基盤を用いて、臨床に応用できる真のバイオマーカーを発見し、その実用化を目指しています。

